

評価項目	評価内容
I. 教育理念・教育目的・教育目標	教育理念・教育目的は本校の教育上の特徴を表している。H30 年度より、教育理念・教育目的を教員室、教室等に提示し、常に目に留まるようにした。また、理念、目的と授業とのつながりはシラバスにも明記され、各科目において学生への周知や教員の教育活動の指針となっている。今後は、時代の変化や社会のニーズに応じた評価、修正が必要であり、カリキュラムの改訂も見据え、定期的に検討していくシステムを構築する必要がある。教育目標は、今後卒業後の継続教育に関してより具体的な文言を追加検討していく。
II. 教育課程	教育課程の設定は、カリキュラムの全体構想や、教育理念・目的・目標、教育課程・授業・評価は、シラバスや実習要項に明記し示されている。今後はより地域のニーズを把握した本校の特色を盛り込み、松阪地区の特色を取り入れた科目設定を次期カリキュラムに入れられるように検討していく。また、教員の教育・研鑽システムにおいては、働き方の見直しを含めて研鑽の時間の捻出に取り組んでいく。臨地実習は、実習場での実習指導者の役割の明確化に取り組んでいきたい
III. 教授、学習、評価過程	授業形態は、各科目毎に講義・演習等授業内容に応じて選択できている。学生の学習が深化・発展するために学生に授業アンケートを実施しその評価を次年度に生かしている。しかし、外部講師に示していなかったため今年度は提示する予定である。評価を活かした授業につなげていきたい。単位認定は公平性が保たれ、評価基準も定められ公表されている。シラバスの提示においても細かく提示されていて学習への動機づけと支援がなされている
IV. 経営、管理過程	設置者の意思や指針は組織内での周知が図られ組織としての体制も整っている。教職員の人数確保も多く、教職員の採用も看護師経験や専門性を考慮してなされている。財政基盤としては、学生からの授業料等に加えて、交付金、医師会からの補助、松阪地区の施設からの寄付金で学校経営を行い財政基盤は安定している。施設設備の充実や整備はなされ、毎年予算化されている。今後の長期計画などは立てられていないため、将来構想を行っていく予定である。H30 年度より自己点検自己評価のシステムを立ち上げ、機能されつつある。半期ごとの評価や運営委員会での検討、第 3 者評価へと、サイクルが回っていき始めたところである。今年度評価はホームページに掲載予定である。
V. 入学	入学時の選抜については、入試規程に選抜の考え方が明記され、これに沿って行われている。学校運営に関する諸規定、看護学校養成所案内、募集要項などにも入学選抜方法は明記されている。入学者状況、入学者選抜方法の分析は、毎月の学校運営会議にて検討している。
VI. 卒業、就業、進学	卒業時の到達状況は講義概要の中に、卒業生像として明示されている。また、看護技術の到達度も実習毎に分析している。しかし、社会人基礎力調査の分析はできていない。卒業生の就業・進学状況は卒業時のみ行っているが、経過を追っての把握はできていない。特に就職先との連携は今後の課題である。H30 年度より同窓会の活動化の支援を行い就職後の所属の確認や同窓会活動の活発化を始めたところである。
VII. 地域社会、国際交流	地域のニーズ調査を H21 年のカリキュラム改正から行っていないため次期カリキュラム構築に向けて再度行う必要がある。地域とは密着しており、実習施設は松阪地区の実習病院を活用し、講義では市長をはじめ数多くの施設より松阪地区の特徴を教えてください内容を入れている。国際交流として活かせるように外国語を英語、ポルトガル語、中国語を学び、文化を学ぶ科目も設置している。
VIII. 研究	研究体制については、財政面や環境面などは保障されているが、職場に研究の風土が根ざしていない現状がある。時間的な余裕のない中で、職場の風土を高め研究の時間を作り出していけるようにしていきたい。

評価項目	評価点数
I. 教育理念・教育目的・教育目標	3
II. 教育課程	2.6
III. 教授、学習、評価過程	2.8
IV. 経営、管理過程	2.7
V. 入学	3
VI. 卒業、就業、進学	1.8
VII. 地域社会、国際交流	2.7
VIII. 研究	1.6

